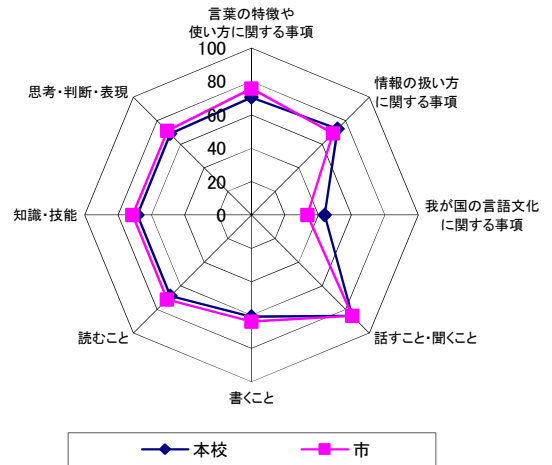


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.5	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	73.2	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	43.9	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	85.4	85.5	86.5
	書くこと	61.0	63.9	65.8
	読むこと	68.7	71.6	69.5
観点別	知識・技能	68.3	71.3	72.9
	思考・判断・表現	68.9	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

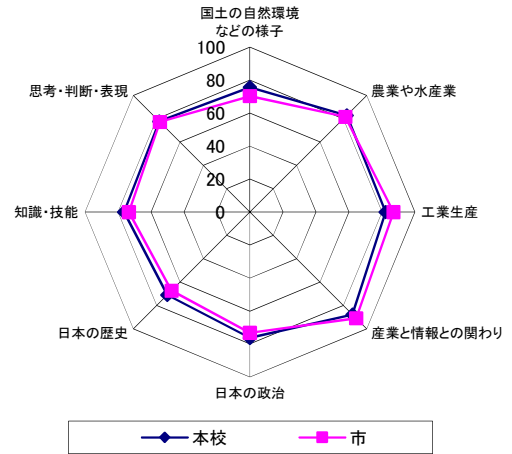
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市平均よりも5.3ポイント下回っている。</p> <p>○文と文の接続の関係を理解しているかどうかを問う問題の正答率は43.9%で、市平均より0.7ポイント上回っていた。敬語について理解し、正しく使っている問題の正答率は85.4%で、市平均より12.3ポイント上回った。</p> <p>●第6学年に配当される漢字を正しく読む問題が3問あり、1問目は97.6%で市平均より2.0ポイント下回り、2問目は61.0%で市平均より16.0ポイント下回り、3問目は95.1%で市平均より3.9ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を習得する際には、漢字事典を活用したり、1人1台端末を利用したりしながら、適切に調べる習慣をつける。 ・漢字のみのノート練習にとどめず、文中で正しく使えるか、送り仮名の誤りがないかを確認しながら、漢字や語の正しい使い方を定着させる。 ・敬語や接続語は授業中に限らず学校生活全体を通して継続的に指導する。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市平均より4.1ポイント上回っている。</p> <p>○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかを問う問題の正答率は73.2%であり、市平均より4.1ポイント上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用し、多様な資料を集めて整理する機会を設ける。 ・情報同士の関係性や、語句間のつながりを意識して表現できるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市平均より10.4ポイント上回った。</p> <p>○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかを問う問題の正答率は43.9%で、市平均より10.4ポイント上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級単位で図書室を活用したり、読書の時間を増やしたりして、日常的に読書に親しむ習慣をつける。 ・語彙を豊かにし、言葉の変化や使い分けに気付ける力を育成する。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市平均より0.1ポイント下回った。</p> <p>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかどうかを問う問題の正答率は78.0%で、市平均より8.2ポイント上回った。</p> <p>●意図に応じて、質問を工夫しているかを問う問題の正答率は82.9%で、市平均より6.4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の授業に限らず、学校生活全般を通して「聴く力」を育成する。 ・ペア学習やグループ活動を多く取り入れ、相手の発話の目的や意図を意識しながら、内容的確に聞き取れるようにする。
書くこと	<p>平均正答率は、市平均より2.9ポイント下回った。</p> <p>○目的に応じて、文章を簡単に書いているかどうかを問う問題の正答率は53.7%で、市平均より6.1ポイント上回った。</p> <p>●目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを問う問題の正答率は53.7%で、市平均より10.4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・条件や目的を設定した作文活動を増やし、理由や考えを明確にまとめる力を育成する。 ・互いに文章を読み合い、感想や意見を伝え合う活動を通じて、良い表現を見付ける力を養う。 ・国語に限らず、他教科や学校行事後にも文章を書く機会を設けることで、書くことへの抵抗感を減らしていく。
読むこと	<p>平均正答率は、市平均より2.9ポイント下回った。</p> <p>○物語の全体像を具体的に想像しているかどうかを問う問題の正答率は82.9%で、全国平均より2.9ポイント上回った。</p> <p>●登場人物の心情について、描写を基に捉えているかどうかを問う問題の正答率は70.7%で、市平均より6.3ポイント下回り、説明文の文章全体の構成を捉える問題の正答率は70.7%で、市平均より6.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文や設問で問われている事柄を的確に整理できるよう、重要語句に印をつけるなどの学習法を継続する。 ・文章を引用して自分の考えを説明する活動を取り入れ、読み取った内容を根拠にまとめる力を高める。 ・本文の叙述を基に文章の全体の内容が正確に捉えられるよう引き続き指導をしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.6	70.3	66.4
	農業や水産業	82.9	81.6	75.3
	工業生産	82.1	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	87.8	91.0	81.3
	日本の政治	76.2	73.2	75.3
	日本の歴史	71.0	67.4	68.5
観点別	知識・技能	76.4	73.5	72.5
	思考・判断・表現	77.8	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

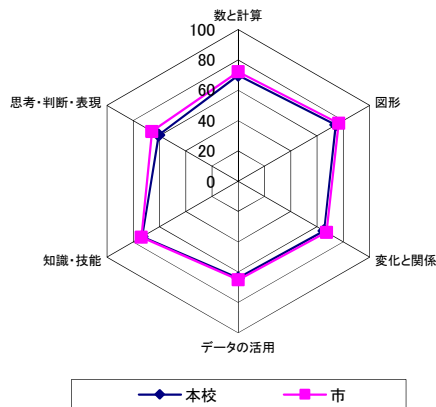
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市と比較すると5.3ポイント高い。</p> <p>○日本周辺の海洋名について選択する問題の正答率は、90.2%と、9割以上が正答しており、市の正答率よりも5.5ポイント高い。</p> <p>○季節風の理解について選択する問題の正答率は、市の正答率よりも12.2ポイント高い。</p>	<p>・国土に関する問題は、全ての問題で市の平均を上回っており、興味関心をもたせる指導の工夫が地理的な知識を身に付けることにつながった。今後も、教科書だけではなく地球儀や動画資料などを用い、多面的に情報を捉えさせることで理解を深められるように指導していく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市と比較すると1.3ポイント高い。</p> <p>○米の生産が盛んな地域について、地図を読み取る問題では、正答率は87.8%と市より4.1ポイント高い。</p> <p>○米の品種改良についての理解をもとに、資料を読み取り記述で表現する問題においては、市の正答率よりも2.0ポイント高い。</p>	<p>・農業に関する問題では、日本地図の読み取る力が関わっており、都道府県や地方名の知識が身に付くような指導を継続したい。また、資料から読み取れることを文章でまとめるなど、記述で表現する機会を設けるようにしていく。</p> <p>・水産業に関する問題では、身近に感じるものが難しいため、動画資料等を活用して指導することで理解を深めていきたい。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市と比較すると4.9ポイント低い。</p> <p>○安全性の高い自動車づくりにおいて、資料をもとに考え選択する問題の正答率は、90.2%と9割以上が正答している。</p> <p>●日本の貿易の変化について、資料をもとに記述で表現する問題では、市の正答率より9.1ポイント低い。</p>	<p>・自動車の製造工程について理解を深められるよう、資料集を有効活用していく。</p> <p>・単元に合わせて校外学習や出前授業を計画し、効果的に活用する。</p> <p>・貿易の変化については、グラフを読み取る力が必要であり、様々なグラフを用いて比べる学習活動を設定していく。その際、文章で情報を整理する機会を設定する。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市と比較すると3.2ポイント低い。</p> <p>○情報を生かした生産について選択する問題の正答率は90.2%と9割以上が正答している。</p> <p>●情報発信と受信の注意点について考える問題では、市の正答率よりも3.6ポイント低い。</p>	<p>・情報モラル教育、国語や総合的な学習の時間など、他教科との関連も図り、情報の発信と受信についてより身近に捉えられるよう単元構成を工夫し、指導計画を立てていく。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市と比較すると3.0ポイント高い。</p> <p>○日本国憲法の原則である基本的人権の尊重について短答で答える問題では、市の正答率よりも4.4ポイント高い。</p> <p>○租税の役割についての理解を基に判断する問題では、市の正答率よりも11.0ポイント高い。</p>	<p>・日本国憲法や法律について、内容や成立の流れを理解できるよう、図や文章で整理し重要語句を抑える指導を行う。</p> <p>・税理士などの専門家を外部講師に招いた「租税教室」と授業での学習を関連付け、身近な生活と税のつながりについて理解を深められるよう指導を継続する。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市と比較すると3.6ポイント高い。</p> <p>○弥生時代についての理解について選択で答える問題では、市の正答率よりも11.7ポイント高い。</p> <p>○能についての理解について選択で答える問題では、市の正答率よりも13.5ポイント高い。</p> <p>●鎌倉幕府の政治の仕組みの理解を基に、資料を読み取る問題では、市の正答率よりも6.2ポイント低い。</p>	<p>・弥生時代～平安時代の学習では、時代の変化を比較する活動を多く取り入れ、資料集やデジタル教材を活用していく。</p> <p>・鎌倉幕府～江戸時代の政治の仕組みについては、重要人物に焦点を当てて学習問題を作り、資料を基に話し合いをする学習活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.8	72.1	74.6
	図形	74.3	76.5	76.1
	変化と関係	65.4	67.1	59.7
	データの活用	63.9	65.0	64.5
観点別	知識・技能	73.2	73.8	74.7
	思考・判断・表現	60.7	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

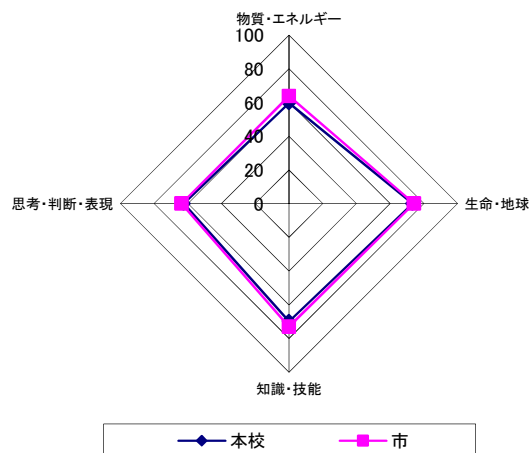
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は69.8%で、市よりも2.3ポイント低かった。</p> <p>○帯分数と真分数の乗法計算の平均正答率は、90.2%で、市よりも15.0ポイント高かった。</p> <p>●2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値からもう一方の文字の値を求める問題の平均正答率は、48.8%で市よりも21.4ポイント低く、正答は半数を下回った。</p>	<p>・帯分数を仮分数に直して計算する方法を理解し、繰り返し計算練習をしたことで、帯分数を含む乗法計算が定着しているのので、今後も継続して指導していく。</p> <p>・単元に応じて習熟度別や少人数、TT指導を取り入れるなど、指導形態を工夫し、個に応じた指導に努める。問題場面から値の分からないものを文字に置き換え、式を立てる方法について、図を活用するなどして再確認し、繰り返し問題練習に取り組むことで習熟を図っていく。また、値の分かるものを文字に代入し、答えを求める練習も取り入れて定着を図っていく。</p>
図形	<p>平均正答率は74.3%で、市よりも2.2ポイント低かった。</p> <p>○三角柱の展開図を組み立てたときの重なる頂点を答える問題の平均正答率は、87.8%であり、高い正答率を示した。</p> <p>●複雑な形の立体の体積を、2つの直方体に分け、求める問題の平均正答率は、61.0%であり、市よりも8.0ポイント低かった。</p>	<p>・ICT機器や工作用紙などの具体物を用いて図の組み立てや展開を児童が操作し、確認することで、立体や展開図の構造について多くの児童が理解できたと考えられる。今後も児童の理解を助ける教材・教具を工夫しながら指導を継続していく。</p> <p>・自分で複雑な形の立体の体積を求めるだけでなく、友達の立てた式からどのように考えたのかを想像する機会を設け、式と場面を結び付けられるようにする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は65.4%で、市よりも1.7ポイント低かった。</p> <p>○速さと時間から道のりを求める問題の平均正答率は、92.7%であり、高い正答率を示した。</p> <p>●単位量あたりの大きさを求め、どちらが安いかを説明する問題の平均正答率は、51.2%であり、市よりも12.8ポイント低かった。</p>	<p>・速さ、道のり、時間の関係性について説明する活動を取り入れたことで、速さについての理解が定着してると考えられる。今後も、自分の意見と比べながら相手に分かりやすく説明する機会を設ける指導を継続していく。</p> <p>・単位量あたりの大きさについて説明した文章の内容を理解し、他の数値にあてはめて説明する力が身に付いていないので、考えを順序よく説明する活動を意識的に取り入れたたり、似た場面で数値を変えて説明したりする機会を設ける。</p>
データの活用	<p>平均正答率は63.9%で、市よりも1.1ポイント低かった。</p> <p>○曜日ごとの読書ページ数を求める問題の平均正答率は、78.0%であり、市よりも7.0ポイント高かった。</p> <p>●ヒストグラムや代表値の特徴をもとに、データ分析の間違いについて説明する問題の平均正答率は、26.8%であり、市よりも8.7ポイント低かった。</p>	<p>・平均についての概念と求め方について理解し、定着している児童が多いと考えられるので、今後も継続して指導していく。</p> <p>・それぞれの代表値が表す意味について再確認するとともに、意識的に社会や理科など他教科でも児童が代表値を活用してデータの傾向を説明する機会を設けていく。</p>

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.7	63.8	61.6
	生命・地球	73.3	74.1	73.3
観点別	知識・技能	69.8	73.0	71.3
	思考・判断・表現	62.5	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>領域の平均正答率は、59.7%であり、市よりも4.1ポイント低かった。</p> <p>○木を缶の中で効率よく燃やす方法を指摘する問題では、市の平均より6.4ポイント上回った。</p> <p>●振り子の周期が振り子の長さにより変わることを理解し、実験の結果を推測する問題では、市の平均より8.9ポイント下回った。</p> <p>●水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことを理解しているかを問う問題では、市の平均より9.7ポイント下回った。</p>	<p>・振り子のように法則性が明確なものについては、結果を吟味しながら実験を行って正しい結果を得ることや、たくさんのデータから法則を導き出す学習展開を心掛ける。さらに、導き出された法則を基に、条件を変えた時の結果を推論させ、実際に確かめる活動を付加することで、法則性の理解を確かなものにしていく。</p> <p>・水に食塩を溶かしても合計の重さは変わらないことについては、粒子の見方・考え方の基本となる内容であり、まず3年「ものと重さ」において、実験や体験活動を通して初歩的粒子概念を形成できるようにする。その上で、5年「ものとのけ方」において、当該の実験を実際に行うことはもちろん、全体を通して粒子の見方・考え方を働かせながら実験したり考察したりし、概念的な理解へと高めていくようにする。</p>
生命・地球	<p>領域の平均正答率は、73.3%であり、市よりも0.8ポイント低かった。</p> <p>○脈拍について理解しているかを問う問題では、市の平均を12ポイント上回った。</p> <p>○葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考える問題では、市の平均を6.9ポイント上回った。</p> <p>●浸食という用語を理解しているかを問う問題では、市の平均を10.2ポイント下回った。</p> <p>●月、太陽、地球の位置関係と、月の見える形に関する問題では市の平均を11.5ポイント下回った。</p>	<p>・脈拍・拍動、浸食・運搬・堆積といった、生活の中では用いる頻度の少ない用語については、繰り返し復習したり、教師が意図的に用いたりして定着を図る。</p> <p>・地上から見上げた月の形と、宇宙で北極星側から俯瞰した太陽・月・地球の位置関係を示す図を見比べながら理解するには、視点の移動が必要であり、いくつかの支援が必要である。教科書の図や動画、シミュレーション等を活用する他、実際にライトやボールを使った体験活動(身体化認知)も取り入れ、感覚的に理解できるようにしていく。</p>